

平成31(令和元)年度 京都府立西舞鶴高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン)(全日制) (計画段階)					
学校経営方針(中期経営目標)		前年度の成果と課題		本年度学校経営の重点(短期経営目標)	
(1) 希望進路を実現できる学力の充実・向上の実現		(1) 「総合的な学習の時間」では生徒の主体性やESDの視点で提言できる力を育てる実践を行いある程度の成果が見られた。また、公開授業や授業アンケートを実施し授業改善に活用した。今後は、探究的な活動を充実させ、教員の教育力を高め、生徒に還元していくことが課題である。		○普通科と理数探究科がそれぞれの特色化を一層推進し、西高ならではの魅力ある学校づくりに努める。	
(2) 規範意識や人権尊重の理念の更なる徹底と生徒の人間力の伸長の実現		(2) 3年生については、組織的な指導体制の整備を図ることで進路希望に応じた丁寧な指導を進めることができた。今後は、高大接続・入試改革を見据えて教員個々の指導力向上を図り、1年次からの学力を定着させ、ガイダンス機能を充実させることが必要である。		○探究活動とアクティブラーニングを取り入れた主体的、対話的で深い学びを推進し、質の高い学力を育む。	
(3) 保護者・地域住民の信頼を高める学校づくりの推進		(3) 部活動では、地道に努力する生徒と献身的な教職員の支援により、積極的な活動が行われ、全国大会や近畿大会・地区大会での活躍が見られた。また、ボランティア活動や学校行事などの特別活動においても積極的な活動が行われた。学業と部活動が両立できるよう条件整備を一層進めることが課題である。		○「わかった」「できた」という感動を大切に、さらなる高みへと導く学習指導・キャリア教育を行い、希望進路の実現につなげる。	
		(4) 生徒が安心して学校生活を送れ、部活動や諸行事にも積極的に取り組む学校として評価を得ている。一方、挨拶の励行、ボランティア活動の活性化、マナー向上、人権意識の向上、学校生活になじめない生徒の手立てやいじめ・体罰等の予防対策には引き続き重点的に取り組む必要がある。		○文武両道の校風と挨拶をする文化を大切にし、チーム西高としてつながる力を高め切磋琢磨する教育環境づくりを進める。	
		(5) 地域社会に貢献し、その期待に応える学校づくりを進めている。今後、見やすいホームページ(HP)づくりや学校便りなどを通して、中学生や地域の方に本校生徒の活躍がよくわかるよう情報発信を行い、さらに「地域に開かれた学校づくり」を充実していく必要がある。		○命と人権を尊重する態度を育てるとともに、悩みやつまづきを抱える生徒への教育相談や支援を充実させる。	
				○交通安全やSNSのマナーについての意識を高める教育を推進するなかで、安全と健康を自ら守る態度を育てる。	
				○生徒が主体性を発揮して自己肯定感・有用感を高める場面を増やし、また、活躍する姿を広く発信して積極的な学校広報を行う。	
				○信頼される学校づくりに向け保護者連携を進めるとともに、教職員の同僚性を高めて指導力向上を図るOJTを推進する。	
評価領域	項目(重点目標)	具体的方策		評価	成果と課題
組織・運営	教職員の資質能力を高め、学校全体の教育力の向上を図る。	全教職員が切磋琢磨し、日常的に自己の教科指導力、生徒指導力、業務遂行力を向上させるなど、自立的な人材育成を図るための職場環境作りと研修の場を充実させる。生徒には、一段高い目標を持たせ、自己の変容を実感できるよう指導を行う。そのため、主体的・対話的で深い学びや、探究活動を推進し、学力の向上・進路希望の実現・特別活動の充実を図る。			
	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	分掌部長・教科主任を核に、本校の課題に対する共通理解を深め、新たな提言や知恵を結集させて学校運営・教育活動の一層の活性化を図る。			
	学校の取り巻く状況を見据えた学校改革を図る	学校説明会の内容の充実と小・中学校等地域との連携の強化を進める。中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを行う。本校の教育内容・実践等に関して、HP等を通じて、情報発信し「地域に開かれた学校づくり」を推進する。			
教務部	校務運営	教科指導力向上への取組	研究授業を全教員体制で実施し、実態の把握に努め、主体的・対話的で深い学びに向けての研究を推進する。		
		基礎学力充実に向けた取組	各教科での取組を支援し、学習環境の調整・整備に努める。		
		勉学と部活動の両立に向けたシステム作り	行事の精選や各取組の整理をし、両立を妨げないような環境を整える。		
		育成すべき資質・能力を踏まえた評価の在り方の研究	新学習指導要領実施に向け、育成すべき資質・能力の共通理解をはかり、評価の在り方の研究をすすめる。		
生徒指導部	挨拶の励行ルール・マナーの遵守	挨拶を励行させ、ルールやマナーを守る意識の向上	・生徒会・HR役員を中心に学校全体に挨拶の輪が広がるように努める。		
			・交通ルール・マナーを守らせ、交通事故の発生を防ぐため指導を行う。		
			・学校や社会生活のルールやマナーの意識の向上を図り、気持ちよく学校生活を送ることができよう努める。		
	安全・安心	安全・安心な学校の体制づくりを推進	・自己管理を徹底し、事故・盗難・トラブル等を未然に防ぐよう指導する。またトラブル発生時の対応についても指導を行う。		
			・スマートフォンの取扱やSNSの利用について意識を高める指導をする。		
	いじめ防止	いじめを未然に防ぎ、早期対応を図る	・「いじめ」を未然に防ぐため、日常における教職員の観察意識を高める。		
			・いじめや問題行動の早期対応を図り、関係者と連携を密にする。		
	自主活動	生徒会活動等の活発化	・生徒会を中心とする自主活動を発展させる。特に地域への貢献や舞鶴支援学校との交流も充実させる。		
ボランティアバンクの活性化			・ボランティアバンク登録率の向上させ、より多くの生徒・教職員が参加できる体制をつくる。		

進路指導部	希望進路の実現	キャリア教育の視点から一段上の自らの目標の明確化および将来展望の育成	進路行事を通じて、生徒の進路意識の向上ひいては社会で自己実現が図れるようにキャリア教育の推進に努める。 模擬試験、進学課外を計画的に実施し、生徒の学力伸張を図る。 入試に対応した面接や小論文の指導を計画的に実施し、進路結果に結び付ける。 民間就職、公務員希望者に対する講座、面接指導を通じて、社会人としての自覚を育む。 1年次からの学力を定着させ、ガイダンス機能を充実させる。 進路情報をこまめに共有し、担任の進路指導を支援する。		
	研修の充実	速やかに指導に還元できる研修の充実	高大接続・入試改革を見据えて指導力向上を図るとともに、模試分析や小論文など先生の指導の一助となるような研修の立案、実施する。		
	保護者からの信頼	情報発信の質を高めるとともに、連携強化	進学・就職説明会の実施のみならず学費に関する講演会など、各種保護者対象行事の参加者が増えるような会のもち方を工夫するとともに、PTAメールはもとよりHPの更新頻度をあげ、有益な情報発信に努める。		
保健部	心身の健康管理	悩みやつまづきを抱える生徒への対応	担任団・教科担当と連携し気になる生徒の早期把握に努め、各分掌と連携して適切な援助を組織的に行う。 スクールカウンセラーや「ほっとる一む」の情報を「ほけんだより」などで広報し、その活用の推進を図る。		
		主体的態度の育成	スクールマネージメント講習や薬物乱用防止講演会の開催		
		熱中症・感染症対策	教職員・生徒への広報を通じて、その予防に努める。		
		教職員研修等	薬物乱用防止やストレスマネージメントに関する研修を実施する。		
学習環境の整備	落ち着いた学習環境の実現	ゴミの分別・減量化と環境衛生検査の事後指導の徹底			
企画情報部	特色化推進	広報活動・生徒募集	本校の特色を検討する機会を設け、意見を集約・調整し、職員会議で共有する。また中学生の様子や地域・保護者の考えについて、校内に情報提供する。 学校生活における生徒の活躍を、HP、広報紙で迅速かつ活き活きと伝える。また、 地域の新聞紙と連携した広報も行っていく。 理数探究科及び普通科の教育システム等の情報を、説明会等を通じて中学生・保護者・中学教員向けに効果的に提供する。 普通科の魅力発信も改善する。		
	図書館・視聴覚教育	図書館活動の充実	図書館オリエンテーションによる利用マナー向上等、環境整備を行う。 教員・生徒に向けた情報提供に努め、図書館利用の利便性を高める。 図書委員会活動を通じて、生徒のニーズに応える選書及び紹介を行う。		
		視聴覚教育の充実	利用しやすい環境を整え、視聴覚機器の有効活用を推進する。		
		文化芸術活動の推進	文化事業の紹介に加え、芸術鑑賞（2年遠足）、文化祭・西高EXPOの記録・事前指導を通じて、生徒の文化の高揚に努める。 西高EXPOの全校体制化を推進する。		
	情報化推進	学校の情報化推進	事務部と連携し、校内ネットワークの環境整備をさらに進める。 Doc1の整理、共有を促し、学校情報のデジタル化を推進する。 PTAメール・HP(学校基本情報)で学校情報を迅速かつ分かりやすく発信する。		
情報教育の推進		学校・教育の情報化に関する校内研修を行う。 情報科と連携し、タブレットPCの利用促進など、IT機器の教育活動での利用を推進する。			

理数探究科	先進的な理数教育	科学体験行事の充実	科学体験合宿の訪問先を再検討し、効果的な合宿となるよう改善する。また、3年間の科学体験行事の実施時期、実施方法を見直し、体系的な科学体験行事となるようにする。		
		課題研究の充実	テーマ設定の段階から丁寧な指導を行い、スムーズな研究活動ができるよう指導する。研究内容は、生徒の興味関心を高めるために、また研究をより意義深いものにするために地域資源を活用することを心掛ける。実験やデータの取り方などを適宜見直して、より質の高い課題研究を目指す。また、評価方法を研究し、指導者間の連携と生徒の活動状況を共有する方法を研究する。 また、京都サイエンスフェスタでの発表も視野に入れた取り組みにする。		
		課題研究指導力の向上	大学講師を招いて、教員の意識も高める。海洋教育パイオニアスクールプログラムを活用して、課題設定段階からの生徒への指導力の向上を目指す。		
		発表を通じた言語活動の充実	校内・校外の発表会を数多く経験させることにより、口頭発表・ポスター発表・記録集の作成など様々な形態で体験・研究活動を効果的に他人に伝える機会を数多く設ける。		
		科学技術コンテスト参加の奨励	各種科学コンテストの情報を効果的に発信し、参加生徒の発掘に努める。		
	希望進路の実現	高大連携の推進	京都工芸繊維大学や、京都大学フィールド科学教育推進センターとの協力体制を深め、新しい高大連携の在り方を検討する。		
		土曜講座の効果的な運用	土曜活用を用いて、科学の魅力を伝える講座、探究の基礎を学ぶ講座を実施し、自然科学体験とリンクさせることで体系的な理数教育の実施に努める。		
		受験指導力の向上	分掌間連携により、学校全体で取り組む授業力・教科指導力の向上に様々な形で貢献する。		
人権教育	人権学習	様々な人権問題について正しい認識と問題解決のための行動力を培う	様々な人権課題を動かし、系統的・計画的に推進する。また他分掌とも連携し、時間的にスリムアップを図る。		
			時代のニーズに応じた学習教材・内容を研究・検討し、手法の工夫・改善に取り組む。		
			人権課題解決の主体としての行動力・実践力を育てる学習を展開する。		
	連携	教育活動を充実させ、生徒の学校生活に対する満足度を高める。	学年部・生徒指導部・保健部等と連携し、いじめの防止や困難な条件を持つ生徒の把握・援助に努め、進路保障を図る。		
			中舞鶴保幼小中高連絡会等との地域連携を一層深め、就修学の保障に努める。		
	研修・研究	全ての教育活動を通じて人権教育に取り組む観点から、人権感覚を日常的に育む。	全教職員が人権教育に対する認識を深め、人権感覚の向上を図る。		
府高人研が主催する様々な研修会等に積極的に参加し、様々な人権課題に対する実践的考察や手法等を身につける。					
人権教育全体計画に従って、各教科の日常の授業において人権の視点を踏まえた指導を考察し、展開する。					
第1学年部	学習指導	基礎学力の充実	授業を大切にする意識を育成する。「無断欠席(欠課)・遅刻・中抜け」をさせない。また、模試・課外・補習等へ積極的に参加させる。		
			手帳を有効活用させ、家庭学習の習慣を確立させる。		
	生徒指導	進路実現に向けての取組	進路希望の把握に努め、進路に適した情報提供など、個人面談などを通して、個に応じた適切な指導を行う。希望進路(目標)が未定の者に対しては、特に丁寧に対応し、早期の決定を図る。		
			教室美化を徹底させ、よりよい学習環境を作る。5分前集合や、提出物の期限を守らせる。教師から積極的に声かけをして、挨拶を励行させる。		
			校則や交通ルールなどの生活規範を尊重する態度を育成する。		
			学校行事・生徒会活動やH R活動へ積極的・計画的な参加を促すとともに、部活動と学習を両立しようとする姿勢を育成する。		
保護者連携	保護者との継続的な連携	役員などの役割をクラス全員の生徒に与え、その職務の遂行を通じて、責任感や行動力などの社会で必要とされる力を育成する。			
		家庭との継続的な連携を密にし、家庭の様子や、学校での状況を交流し、生徒の指導に生かす。			

第2学年部	学習指導	基礎学力の底上げを図る	教科担当者との連絡を密にし、問題の早期発見、解決に努める。 落ち着いた授業の雰囲気作りとともに、静かなだけではなく積極的に参加し、自ら考える学習姿勢の定着を目指す。			
		さらなる学力伸長を目指し、進路実現に向けた展望を持たせる	成績上位層とともに、中位層のさらなる学力伸長を目指す。			
			日々の演習、模擬試験のデータを通して課題克服につなげる。 大学入学共通テストを念頭においた教科指導を心掛ける。			
	生徒指導	安全で安心な学校生活の点検	学校内のみならず、登下校時の安全を含めて、危険箇所の点検、生徒への注意喚起を実施する。また、人間関係のトラブルを未然に防ぐとともに、何かあったら担任に話ができるという関係の構築を目指す。			
各種学校行事を成功させる		研修旅行や、学校祭等、高校生活の折り返し点にある行事を生徒とともに完成させる。				
保護者連携	保護者との密な連絡を図る	事後対応ではなく、事が起こる前の予防という観点から、家庭との連絡を密にして連携した対応を目指す。				
第3学年部	学習指導	希望進路を実現できる学力を身に付けさせる	教科担当者との連携をとり、学習習慣の定着を完成させて自立した学習者へと導く。 模擬試験等を通して自己の実力を把握させつつ、進路情報を提供し、学習意欲を高め、希望進路の実現を図る。			
		希望進路の実現に向けて、効果的な取組を行う	将来を見据えた進路希望を持たせるとともに、その把握に努め、個に応じた適切な指導を行う。			
	生徒指導	特別活動や部活動等への参加を促し、活動を通して社会性や人間力を向上させる	部活動、生徒会活動、学校行事、特に学校祭の取組において、リーダー性を発揮できるように指導する。 将来の面接試験を念頭におき、期限や時間を守らせるとともに、服装や頭髪などの身だしなみを整えさせ規範意識の高揚を図る。			
保護者連携	生徒と保護者双方の考えを把握する	学年団全員が協力して日々の取組を行い、情報共有を徹底する。保護者との連絡を密にとることで、生徒・保護者に信頼される関係を構築する。				
学校関係者評価委員会による評価						
次年度に向けた改善の方向性						

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果が得られた） B：ほぼ達成できている（ほぼ目標通りの成果が得られた） C：達成できているとはいえない（成果はあったが、目標に達していない） D：ほとんど達成できていない（ほとんど成果がなかった）